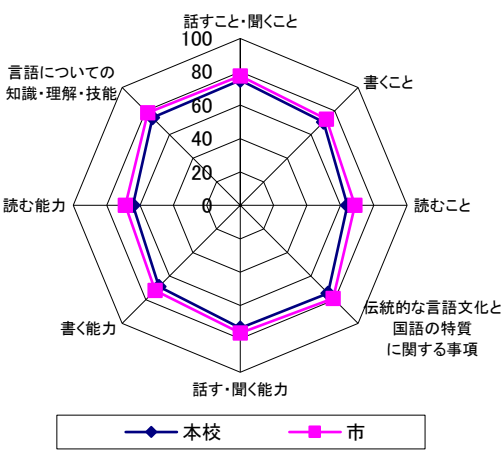


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.0	77.6	76.3
	書くこと	70.5	73.0	56.1
	読むこと	64.2	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	73.5	76.5	75.4
	書く能力	68.8	72.0	58.1
	読む能力	64.2	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	74.3	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

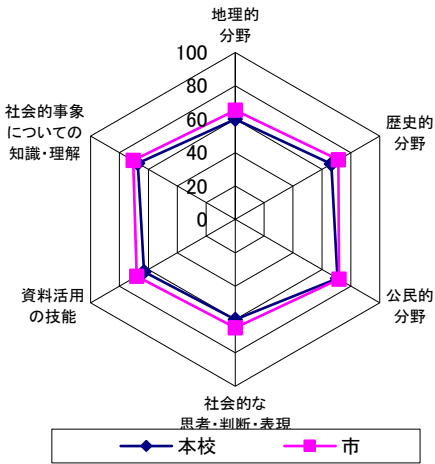
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●参考値より1. 3、市より2. 6ポイントと低い値となった。 ○他領域に比べるとやや市のポイントに近い結果となった。	・質問事項に対し、聞き手が求める適切な答え方ができるよう、話し手の要点を押さえながら聞き取る指導をしていく。 ・聞き手がわかりやすい表現をする意識を持たせ、他者に理解してもらえる話し方を工夫する機会を設ける指導をする。
書くこと	○参考値より14. 4ポイント高い値となった。 ○自分の立場を明確にして書くことのポイントが比較的よかった。 ●市のポイントより2. 5ポイント低い結果となった。	・文章を書く機会を増やしたことで、少しずつ抵抗なく文章を書くことができるようになったので、継続して指導をしていく。 ・読み手にわかりやすい表現となるよう、相互で読み合わせをするなどの指導をしていく。
読むこと	○参考値とほぼ同じポイントになった。 ●市よりも4. 6ポイント低い結果となった。	・文章の展開を捉えることができるようになってきたが、論理展開や要約することが苦手なので、その点について意識して指導していく。 ・表現の特徴や人物像をまとめることができるような指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●参考値より約3ポイント高い結果となった。 ○市よりも4. 3ポイント低い結果となった。	E語彙不足が漢字の書き取りや類義語、対義語の間違いにつながっているのを、辞書を活用し正しい知識の確認をさせる指導をしていく。 ・必要な知識を定着させるために繰り返しの漢字練習などを行う。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.0	65.4	52.7
	歴史的分野	66.5	71.3	64.1
	公民的分野	70.8	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.0	64.9	53.5
	資料活用技能	62.9	68.0	57.3
	社会的事象についての知識・理解	67.4	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

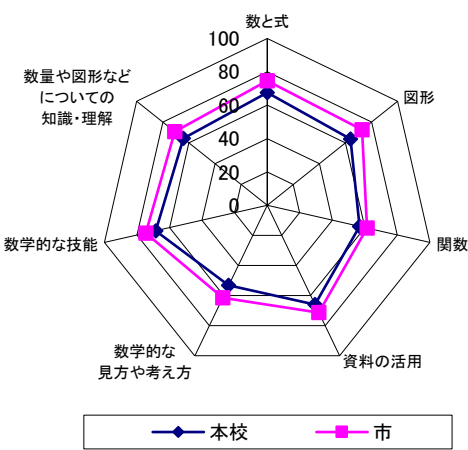
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○アジア州への理解が高い。 ●ヨーロッパ州への理解が低い。	・アジアもヨーロッパも複数の資料を基に考察する問題であるが、点数の差が出たのは、単元の理解度のちがいと思われる。ヨーロッパをもっと身近に感じられるような学習の工夫が必要と思われる。
歴史的分野	○古代の知識や理解については市の平均と僅差となっている。 ●近代の西郷隆盛等の単元の理解が低い。	・基礎基本となる用語については理解しているが、水城や農業の発達の説明を資料を基に行うような思考問題には弱い。あともう一步の踏み込んだ学習をグループ中心に進められるとよい。
公民的分野	○現代の民主政治と社会とくに議院内閣制や裁判のしくみが市の平均を大きく上回り、極めてよい。 ●憲法改正の手続きの理解が低い。	・単元テスト・対策プリント等で繰り返し、重点的に学習を進めてきた成果である。知識が中心の出題であるため良くできていたものと思われる。今後は、思考を伴う資料問題等を活用していきたい。また、課題学習等も取り入れて興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.6	74.7	72.4
	図形	63.9	72.7	62.3
	関数	56.8	61.3	52.1
	資料の活用	66.0	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	53.2	61.4	45.2
	数学的な技能	68.5	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.3	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

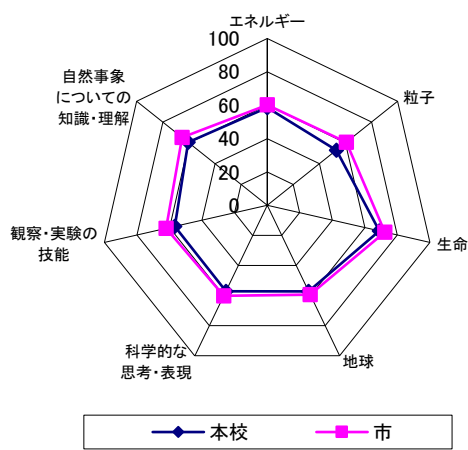
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式の計算、方程式・連立方程式、2次方程式については全国正答率よりも高い。 ●すべての設問で市の平均を下回った。特に因数分解の問題では全国平均を大きく下回った。	・因数分解や根号を含む式の計算など、3年生時の学習内容が定着していない。計算力が身に付くように、ドリル形式の反復学習が必要である。
図形	○作図や面積、体積を求める問題については正答率が高かった。 ●三角形の合同を証明する問題については正答率が低く、市の平均を16ポイント下回った。	・証明を苦手とする生徒が多い。図形を視覚的にとらえ、計算する力は身に付いているが、説明や証明を苦手とする生徒が多い。授業の中でまずは穴埋めからなどと段階的に理解させていく必要がある。
関数	○式を求める問題や長さを求める問題については、全国平均を上回った。 ●グラフから考察する問題については市、全国の平均を下回っている。	・関数に関する基本的な計算やグラフから関数の式を求める力は概ね身に付いているが、グラフを活用する力が身に付いていない。グラフの中に図形的な要素が含まれる活用問題に関して、視覚的に問題を読み取れるよう具体物などを使って学習させていく必要がある。
資料の活用	○全部の設問で全国の平均を上回った。 ●理由を説明する問題では正答率が低く、市の平均を13ポイント下回った。	・確率の問題や平均を求める問題については小学校時の知識を活用して解ける生徒が多かった。相対度数を求める問題については、資料の読み取り方が理解できていない生徒が多かった。相対度数の意味をしっかりと理解させ、資料を正しく読み取れるように反復学習をする必要がある。また、事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を説明する問題など、活用に関しても同様である。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.6	60.2	57.6
	粒子	52.9	60.6	55.1
	生命	68.9	72.3	63.6
	地球	57.1	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	57.1	60.2	57.3
	観察・実験の技能	56.8	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	60.6	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

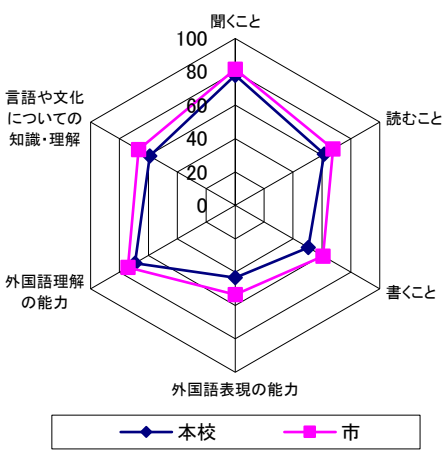
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○宇都宮市平均は下回るものの、参考値は超える結果が出ている。また、基本的な語句を答える問題では、高い正答率が見える。 ●エネルギーの中で、「仕事」「仕事率」などの計算問題で正答率が下がる。基本的な公式を覚えて、そこから実際に数値を使って計算することを苦手とする生徒が多い。	・公式を利用した、計算問題を多く解かせることで、計算問題への苦手意識をなくす。また、公式そのもののなぜその公式なのかを、理解したうえで使えるようにする。 ・目に見えない概念を実験等を通して体験することで、計算問題につなげていけるようにする。
粒子	○実験方法や基本的な語句を答えることができる。 ●本年度市内平均、参考値を大きく下回る結果となっている。語句や図では答えることができるが、イオン式や化学式になると極端に点数が下がる。	・イオンの特徴や性質を入念に指導していく。また、イオンにある共通点を踏まえて、少しでも覚えやすい指導を心がける。また、小テストをこまめに実施して、定着するよう努める。
生命	○参考値を大きく上回る結果となった。生物分野においては、生徒の関心意欲も非常に高く、自ら考えて学ぶことができている。 ●遺伝の分野は、類似した語句がたくさんある。この違いをうまく区別して覚えることができない生徒が見られる。	・生命にさらに興味を持つために、実物を見ることはもちろん、実際に見ることができないものは、画像や動画を効果的に使用し、今以上の興味関心が湧くような授業にする。 ・また、類似した原理についても、一つ一つ細かく説明することで、知識が混在することを防ぐ。
地球	○地球分野も参考値を大きく上回る結果となった。我々の身近に存在する現象には非常に興味深く学習に取り組んでいる。 ●地震の速さを求める計算や、グラフの読み取りに苦手意識がある。	・我々が生活する上で、地震や天気といった分野は知識として身に付けておくべき内容である。これらを知ることが、生きるうえでも非常に重要なことを授業中に伝えていく。 ・そのことから、この範囲を学ぶ意味を知ること、学習に対する意欲を今以上に向上させ、テストにもつなげていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	78.0	81.7	75.3
	読むこと	61.5	67.7	62.9
	書くこと	50.6	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	43.3	53.5	44.8
	外国語理解の能力	69.3	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	59.0	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ALTの授業、デジタル教科書を使い普段からリスニングや本文音読、ペアでの会話活動などを行い、英文を聞き理解する機会を多く持った。 ●会話の中で相手が言ったことを正確に聞き取る力はまだ低い。まとまった英文を聞き、質問に答えるリスニングの問題など苦手な生徒が多い。	・ディクテーションなどのリスニング練習の機会を今まで以上に増やす。 ・ペア活動などをする際、どうしても日本語が混ざってしまい効果的な練習ができていない場合もあるので、より英語をしっかりと練習した後、プリントを見ずに会話を言えるようになってから、会話活動をさせる。
読むこと	○英文を正確に理解するため、単語の意味の定着を図る段階から弾丸インプットをほぼ毎時間使い練習をたくさんした。また、教科書の本文をすべて和訳する時間も多く設けた。 ●単語の意味を正確に覚えることが難しい。文法、熟語の知識が不足しており、一文読めないと先に進めない生徒もいる。	・弾丸インプットなどの単語帳を活用し、まずは基本的な単語の意味の定着を図る。 ・興味をもって英文に向き合えるよう、デジタル教科書のムービーを使うなどし、導入部分で工夫をする。また細かな文法、語彙のつまづきで読み進められないことが無いよう、援助し読む楽しさを実感させる。
書くこと	○語彙力をつけるため、授業の中で単語練習の時間を設け、さらにその後小テストなど行ってきた。さらにまとまった英文を書く機会も持った。 ●語順の知識が低く、基本的な文法についても、どのような場面で使うか理解できていない生徒もいる。	・一年生レベルの英文など、普段から簡単な英作文の活動を行う。 ・少しまとまりのある英作文を利用する活動を増やす。またそのために、語彙力を鍛えるため普段の授業の中で単語練習、書く英文数を今以上に増やす。